

言葉に着目し、自分の考えを伝える学習活動
～「1年生にスイミーのお話を紹介しよう」の実践を通して～

阿南市立津乃峰小学校教諭 丸山 さやか

1 はじめに

本学級は自閉症・情緒障害特別支援学級で4名在籍しているが、国語科の学習は、2年生2名で進めている。2名とも真面目で課題に最後まで粘り強く取り組むことができる。しかし、言語理解やコミュニケーションの取り方、社会性に困難さがあり、自分の考えや思いを言葉にして伝えることが苦手である。また、国語の「読むこと」の学習では、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることに課題がある。そこで、身近なことを表す語句の量を増やし、自分の考えや思いを言葉にして伝えられるよう支援していきたいと考えた。

本実践「スイミー」の学習では、登場人物スイミーの気持ちに寄り添い、言葉による見方・考え方を働かせながら読みを深めたり、他者と交流しながら考えを広げたり共有したりする単元の構想を考えた。また、学習課題としてのゴール「1年生にスイミーのお話を紹介しよう」を設定し、一人一人が主体的に言語活動に取り組むことができるような国語科授業を目指し実践を進めた。

2 研究の方向

- (1) 言語能力を育てるための指導の工夫（常時指導）
- (2) 考えを形成し、共有するための国語科学習指導
 - ・「読むこと」への手引きの工夫
 - ・考えを形成する過程における指導のあり方
 - ・交流の場を広げるために

3 研究の実際

- (1) 言語能力を育てるための指導の工夫（常時指導）
 - ① 言葉集め「マイじてん」
 - ② 読み聞かせ
 - ③ ペアトーク
 - ④ 自立活動「きりりタイム」
- (2) 考えを形成し、共有するための国語科学習指導
 - ① 「気持ちをあらわすことばを考えよう」の授業実践
 - ② 「お話を読んで、紹介カードをつくろう」の授業実践

4 おわりに

授業や生活の中で体験と言葉がつながり、子どもたちが様々な言葉を獲得できるようになってほしい。今回、目的意識をもって活動に取り組むことを通して、子どもたちは最後まで意欲的に取り組むことができた。また、子ども一人一人の特性を考えながら学習の手立てを個別化することにより、子どもたちは達成感を味わうことができた。学習したことが実生活でいかせるように今後も児童の実態を把握しながら学習計画を立て、語彙を増やし、自分の考えや思いを言葉にして伝えられる場面を設定し、支援していきたい。